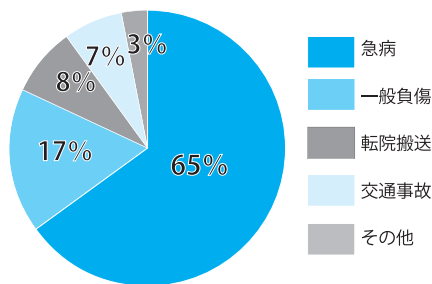


9月9日は『救急の日』

救急医療週間 9月9日(日)～15日(土)

救急出場件数過去最高！

長門市管内における平成23年中の救急出動件数は、1,857件、搬送人員は1,778人と過去最高となりました。これは管内人口の約22人に1人を搬送していることとなります。



救急出動の理由

救急種別ごとにとみると、急病によるものが1,195件と大半を占め、次いで一般負傷が37件、転

院搬送が156件、交通事故が128件となっています。

高齢者の一般負傷増加

総搬送人員のうち、65歳以上の高齢者は1,235人と全体の約7割を占め、そのうち急病により救急車で搬送された人は減少しているものの、一般負傷(注)により搬送された人は、一昨年と比べ約20%増加しました。

なかでも、家庭内における転倒事故が大半を占め、その場所は寝室を含む居室が50人と最も多く、次いで庭や車庫が18人、玄関が14人、廊下が13人となっています。

普段何げなく生活している場所でも、どこに危険が潜んでいるかわかりません。家庭内でのケガを防ぐためにも、室内で転倒しそうな場所や危険な箇所を思い返すなど、各家庭で話し合いま

しょう。

また、筋力の低下を防ぐためにも、近所の人とのウォーキングや、市で取り組んでいる「ころばん体操」など、軽微な運動を無理なく行うことが大切です。

ただし、暑い日が続いているので、運動をする際には適度な休憩と水分摂取を行い、熱中症にならないよう注意してください。皆さんが、ほんの少し注意を払うことで防げる事故をなくしていきましょう。



▲ころばん体操

(注) 一般負傷：転倒などによるケガ、食事中の誤嚥など、他に分類されない不慮の事故

ドクターヘリ活躍中！

昨年1月に運航開始したドクターヘリの長門市への出動件数は6月末日現在で55件、そのうち転院搬送が46件、救急現場からの要請が9件でした。

救急車とドクターヘリが合流する地点(ランデブーポイント)は市内に26箇所指定されています。ドクターヘリ離着陸時には安全確保のため、市民の皆さんに臨時ヘリポートからの避難のご協力をお願いします。



▲命をつなぐドクターヘリ

心肺蘇生法が変わりました

新しい心肺蘇生法の流れ

①反応の確認をする

②助けを呼ぶ
(119番通報とAEDの手配)

③呼吸をみる

普段通りの呼吸あり

気道確保

応援・救急隊を待つ
回復体位を考慮する

呼吸なし

④胸骨圧迫

- ・強く (成人は少なくとも5cm、小児は胸の厚さの1/3)
- ・速く (少なくとも100回/分)
- ・絶え間なく (中断を最小にする)

⑤人工呼吸

・人工呼吸ができないか、ためられる場合は胸骨圧迫のみを続ける

⑥心肺蘇生 (胸骨圧迫30回+人工呼吸2回を繰り返す)

AED到着!

⑦AED装着

電源を入れ、パッドを装着

⑧心電図解析

電気ショックは必要か?

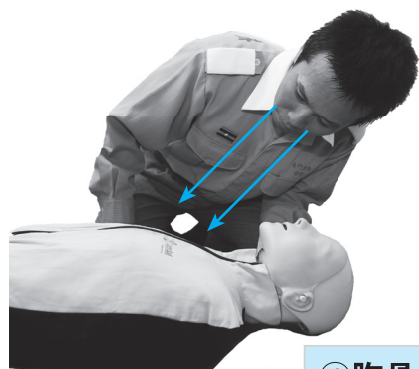
必要

不必要

⑨電気ショック1回

⑩その後ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生再開

⑨ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生再開



目で胸やお腹の動きを見ます



AED (自動体外式除細動器)



心肺蘇生のように

※救急隊に引き継ぐまで、または傷病者が目を開けたり、普段通りの呼吸ができるまで心肺蘇生を続ける
インターネットでもやり方が学べます 一般市民向け応急手当 Web 講習
<http://www.city.nagato.yamaguchi.jp/~shobo> (長門市消防本部ホームページ)

消防本部で指導している心肺蘇生法は、心肺蘇生国際ガイドラインに基づき世界的に統一された方法ですが、昨年同ガイドライン2010が発表されたのを受け、今年の4月から心肺蘇生法が新しくなりました。

主な変更点は、呼吸の確認をお腹や胸のふくらみを見て判断すること、普段どおりの呼吸をしていなければ、直ちに胸骨圧迫を開始するなど、一連の動作が簡略化されました。(上図参照)

また、インターネットで気軽に応急手当が学べるe-ラーニングを消防本部のホームページ内に開設しました。心肺蘇生法やAEDの使用方法を各家庭でも学ぶことができます。突然に倒れた人の命はそばに居合わせた皆さんの勇気と迅速な応急手当にかかっています。

各種救命講習(3~8時間)、AEDの使用方法を含む救命入門コース(90分程度)のお申し込みは職場や地域、グループ単位で消防本部警防課救急係までご連絡ください。

■問い合わせ 消防本部警防課

TEL 22・5295